

京都市みぶ身体障害者福祉会館 及び 京都社会福祉会館 開館記念式典



2024年5月18日(土)に行われた京都社会福祉会館の開館記念式典、にじの子どもたちが登壇し、にじの紹介と手話レクチャーをしました。

P3に関連記事があります

お知らせ



7月1日社会福祉法人京都紫明福祉会が運営する「こころリンク山城」(就労継続支援B型事業所)が京田辺市内にオープンしました。これまで「さんさん山城」として行ってきた事業を新たな枠組みで行うものです。当法人としては聴覚障害者のための相談、生製品の販売連携、職員やボランティアの交流など、連携しながら共に歩みます。

今後とも、お力添えよろしくお願い申し上げます。

舞鶴市聴覚言語障害者支援センター

新しい居場所
気持ちも新たに明るい未来へ

地活の創作活動・花作り「あさがお」「あじさい」

四団体の
要望活動

舞鶴市聴覚言語障害者支援センター（以下「聴言センター」と、舞鶴市聴覚言語障害者地域活動支援センター「つるの会」（以下、「地活センター）」は、2024年4月に中総合会館内の3階に引っ越しました。

以前から舞鶴センターでは、建物の老朽化（屋外非常階段の劣化・建物へのヒビ・エアコンの故障・扉が閉まらない等）の課題がありました。

長年、聴覚障害者関係団体の四団体（府聴障協舞鶴支部・府中失難協舞鶴支部・舞鶴手話サークル「つたの会」・

舞鶴要約筆記サークル「みみ

かき」）が、舞鶴市に対し、

より利用しやすく安全に過ご

せる居場所として、センター

の拡充・移転を求める統一要

望書を提出されていました。

その要望が具体化したのは

昨年の夏ごろからで、四団体

の要望活動や、センター老朽

化の現状から、移転したほう

が、センターがより機能的に

なるのではないかとという意見

でまとまりました。

相談がより
気軽に

これまでのセンターは、1

階に聴言センターの事務所が

あり、3階で地活センターを

運営していました。利用者さ

んが相談に来られる際には、

エレベーターを利用し、1階

まで下りてきていただいてお

話を伺っていました。

4月以降は、部屋が隣に位

置しており、地活センターの

休憩中などに、気軽に相談が

できる環境となりました。

「建物もフロアーもきれいに

なって嬉しいわあ」「隣に聴

言センターがあるので、いつ

でも相談できるなあ」と、新

しいセンターに来られた利用



手話を使って挨拶！

者さんも、明るい表情で語ら
れます。

より多くの方々と
ふれあい

さらに、中総合会館内に

は、社会福祉協議会や地域包

括支援センターなどの事業所

もあり、一般の来館者も多く

来られます。聴言センターや

地活センターの取り組み等を

見ていただける機会が増え、

「手話コミ条例」の周知、手

話通訳・要約筆記など、聴覚

障害に関する理解推進が期待

できます。

地活センターの
再開

再開

地活センターの開所日は、

月・火・木曜日の週3回で

す。利用者の方々の多くは、
昼食のお弁当を食べた後、聴
言センターに、通訳の依頼、
困りごとや生活のこと等相談
に来られます。

ある日、話を聴いてほしい
と来られたAさんは、難聴で
時々耳なりがすると言われる
方です。家族や自分のことな
ど、不安や困りごとを話され
たAさんは、「聞いてもらって、
気持ちがとても楽になり
ました」と柔らかな表情で戻
られました。

人と人がつながり
あえるセンターへ

2001年に開所した舞鶴
市聴覚言語障害者支援セン
ターも23年目を迎えます。利
用者の方々もセンターと共に
歩みを重ねられ、年齢と共に
体調の不安を気にされる方も
増えました。介護保険サービ
スを利用される方も増え、支
援内容の変化はありますが、
先人の想いを受け継ぎ、この
移転を新たな一歩として、人
と人がつながりあえるセン
ターを目指します。

（北部市町村支援部

河地 徹



「にじ」 新たな場所で スタートしました！

京都聴覚障害児放課後等デイサービス「にじ」(以下、「にじ」)が中京区の京都社会福祉会館へ移転し、3か月が経過しました。

四条大宮から徒歩5分ほど先に新設された社会福祉会館の3階に「にじ」はあります。



2013年3月29日、二条



お出かけ前のグループ相談

移転後は、待賢学区の自治会長さんはじめ、地域の方々からのご理解ご協力の中、区民運動会に2年連続で参加しました。リレーのスタート時は笛と合わせて、目で見えてわかるように旗で知らせるなど、みなさんの工夫もいただき、交流を深めることができました。

現在、約60名の登録があり、京都市の他、長岡京市、向日市、亀岡市、さらには滋賀県や奈良県など、様々なところから通われています。



「にじ」の存在をようやく知ってもらえるようになった矢先でしたが、新しい京都社会福祉会館の完成に伴い、2024年4月8日に中京区へ移転しました。

5月18日、京都社会福祉会館の開所式典が行われました。「にじ」の子どもたちは、式典時に「手話レクチャー」を」と依頼を受け、みんなで舞台にあがることになりました。



開所式典で「手話レクチャー」

一度も練習する機会がないまま、当日の朝を迎えました。が、心配する保護者や職員をよそに「オッケー！」という元気のよい子どもたちの姿に、厳粛な式典が和やかな雰囲気になりました。

今年11月目を迎え、6月から卒業生が、「にじ」臨時職員として働いています。後輩たちの良いロールモデルとなつて、卒業したら「にじ」で仕事をするような流れができることを期待しています。

きこえに理解のある職員や、おなじ障害の友だちや先輩との交流を通じて、子どもたちが安心して自己表現でき、ほっと一息つける場所。

これからも「にじ」はそんな場でありつづけます。

(地域・こども福祉部

竹内郁海)

五山の送り火みえるかな？ (大文字を観る会)

日時 2024年8月16日(金)
受付開始 19:30～ 終了 21:00

場所 京都市聴覚言語障害センター 屋上

京都市聴覚言語障害センターの屋上で仲間たちと一緒に五山の送り火を楽しんでみませんか♪

※先着50名様にささやかなプレゼントをご用意。
※飲食は禁止とさせていただきます。
※参加者多数の場合、安全のため観覧人数の制限を行う可能性があります。ご了承ください。



懐かしい話に花が咲きます

認知症対応型グループ

変化が刺激に

梅の木寮生活第2課では、多くの綾部東部地域の方が生活されています。「同じ地域で婦人会活動をしてきた」「生まれが同じ地域」と、顔を合わせれば昔話に花が咲くこともしばしばです。

認知症の方は、新しいことを覚えることは苦手ですが、昔のことはよく覚えておられます。昔懐かしい言葉や地名・家族の名前などが話に出てくると、パツと目が開き、一瞬にして昔がよみがえり、生き生きとお話が始まることもあります。

元気に暮らしています

一人ひとりに
合わせます

梅の木寮は、生活の場です。沢山の方が一緒に生活されていますが、一人ひとりの生活リズムに合わせた支援を心掛けています。

とくらの家から来られたHさんは、夜中23時過ぎまで、趣味のクロスワードパズルに熱心に取り組みられます。夜勤の職

ホーム「とくらの家」の閉鎖に伴い、8名の利用者が梅の木寮に入所され数か月がたちます。変わりない支援を継続し、安心して暮らしていただけるように努めてきました。生活者同士のつながりもでき、すっかり慣れて、元気に生活されています。

梅の木寮も元気な皆さんをお迎えすることで、刺激をいただいています。



食器洗いは任せて

員に「あんだ。これどういうこと。どういう意味」と一緒に取り組むこともあります。翌朝もしつかり早起きして、朝からお茶碗洗いのお手伝いをしてくださいます。

Oさんは、日課の新聞を取りに玄関へ。Iさんは、早起きが苦手で、11時頃に起きられて、朝・昼を兼ねた食事が始まります。Tさんは、「ピンピン。元気が取り柄」と毎日足上げの体操をしています。

「あんだもしないな。あかんで。元気やなかったら」と周りの皆さんも誘って「ピンピン。ピンピン」と声が響き渡るこ



皆で体操中「ピンピン」

（施設第二福祉部 佐藤 香）

大切に支援し、元気に自分らしく過ごしていただけるようにお手伝いしていきます。



ともあります。

これからも

日常生活はもちろん、毎週水曜日の健康長寿体操、毎月の手作り教室、華道教室、書道教室、季節ごとの行事など、生活を豊かにするための活動を行い、皆さんに楽しんでいただいています。また、行事に皆さんの声を反映するために自治会活動（年輪の会）にも力を入れ、計画段階から一緒に行事を考えています。これからも、皆さんが生きてきた歴史を

今年も開催!! いこいの村まつり2024

日時 10月19日(土) 11:00 ~ 15:00
場所 いこいの村 敷地内
(京都府綾部市十倉名畑町久瀬谷2)

今年のまつりのテーマ 笑顔でるるるるぶ(集まる・しゃべる・食べる・感じる・学ぶ)

手話劇の舞台発表や、来場されている皆さんと一緒に楽しめるイベントを計画しています。おいしい食べ物やサークルで作成された小物などの販売もあります。

当日の準備、交通整理、入所者(利用者)のまつり参加補助等、ボランティアも募集しています。

お子様連れのお客さんも大歓迎♪

お問合せ いこいの村まつり担当：引原・蘭田
TEL(0773)46-0101 FAX(0773)46-0610

■駐車場多数あります。大型バスも停められます！



PR動画も
ご覧ください



待ってるよ!



2008年
から聴言

会福祉協議
会宇治田
原町要約筆
記サークル
と聴言「そ
ら」が協力
しています。

宇治市聴覚障害者生活支援セ
ンター「そら」(以下、聴言
「そら」)は、宇治市・宇治田原
町からの受託で聴覚障害者に関
する生活相談事業をおこなって
います。
宇治田原町聞こえのサロンは
年3回、宇治田原町老人福祉セ
ンター「やすらぎ荘」で開催し
ています。主催は宇治田原町社

京都 北から南まで

宇治市聴覚障害者生活支援センター
「そら」



聞こえのサロン



「そら」と宇治田原町が一緒に
耳のこと相談会を開いていまし
たが、相談会を開く中で、聞こ
えにくい方々が集まり、安心し
て交流できる場が欲しいという
声から、社会福祉協議会に相談
し、サロン事業の1つとして実
現しました。

今年5月に40回目を迎え、常
連の参加者が代表でくす玉を
割ってお祝いしました。サロン
では、要約筆記のスクリーンを
見ながら、参加者の皆さんが楽
しめるレクリエーションを行っ
ています。またワンポイント手
話、ふるさとの手話歌で会を開
めています。年に3回の開催な
ので、参加者からは「毎月開い
てほしい」「たくさんみんなと
交流がしたい」と声があがる
程、楽しみにしてくださってい
ます。

(南部市町村支援部

藤田ひとみ・山口祐佳)

職員紹介



いこいの村施設第一福祉部
入所支援課

勝山 貴至(入職36年目)

4月からいこいの村栗の木寮の障害者グループホーム(コスモス寮・
とくらの家)の職員として再び「村人」になりました。栗の木寮は20年
ぶりの古巣ですが、共に過ごした当時の入所者は半数になり、事業体系
も変わり、新たな気持ちで臨んでいます。

定員13名のグループホームは6月に利用者がほぼ入られて、毎日がに
ぎやかです。

ここは、利用者が仕事や日中活動から帰ってこられてから翌朝に元気
で出かけられるよう、夕食・朝食の調理、入浴や洗濯の支援、相談など、
利用者の生活を支える業務を夕方から朝まで担う世話人がいます。9名
の世話人は利用者にとって家族のような心強い存在になっています。

日々、お互いに話がはずむ和やかな時間が流れており、時には聴覚障
害がある利用者や世話人による即席手話教室が開かれて皆で学びあうな
ど、いこいの村ならではの時間もあります。

私自身、学ぶことはまだまだ多いですが、「将来は一人暮らしをしたい」
「ここで生活力をつけたい」など、利用者が自身の力を発揮して各々
の思いが実現できるように、世話人と一緒に力を合わせていきます。

京都府聴覚言語障害センター
障害者支援センター「みなみかぜ」

朝と夕方の
送迎ドライバー募集!

ハイエース等が運転できる方

勤務時間 7:30~9:30/15:45~17:45

時給 1,086円

問合せ先 TEL (0774) 30-9000 FAX (0774) 55-7722

担当 池原/今西/廣瀬





理事長 高田 英一

最高裁判決

最高裁判所は7月3日に強制不妊の判決を言い渡しました。

旧優生保護法は憲法13条「個人の尊重」及び14条「法の下の平等」に違反、賠償請求権が消滅する除斥期間の適用を「到底容認することが出来ない」と断じ、原告が全面勝訴しました。

NHKの朝ドラ「虎に翼」に出ている穂高重親教授は旧憲法下において大学の法学部に女性の参加を認めました。事実上の女性差別に反対し、法の下における平等の主張です。

新憲法下において穂高教授は殺人よりも尊属殺人（年上の親戚を殺す）の重罪化を拒否しますが少数意見でした。日本の道徳からして尊属殺人はとりわけ重要なのですが、後に尊属殺人は否定されます。

時代に先駆けた先進的意見を主張しながら穂高教授は自らの意見が入れられないことを「雨垂れが岩に落ちて流されるに過ぎなかった」と卑下しますが、それは寅子に激しく否定されます。実際は「点滴岩を穿つ」が正しいが穂高教授にそう言い切るには謙虚すぎたのでしょう。

憲法に正しいことが書かれているにしても、国民のすべてがよく考え、実生活に適用されるよう実践する努力が必要です。

京都府聴覚言語障害センター 開放日 2024 入場無料



ホームページをチェック

2024年10月12日(土) 10:30~14:30

場所 京都府聴覚言語障害センター



今年もようりんちゃん来てくれます！



- 地元のお店や障害者施設の軽食やスイーツ出店予定
- スタンプラリー・手話教室、こども向き企画もあります

みなさんお誘い合わせの上、お越しください

問合せ先 京都府聴覚言語障害センター

TEL(0774)30-9000 FAX(0774)55-7708

2024年度

法人後援会 総会開催

日時 2024年8月24日(土)
11:00~12:00

場所 京都府聴覚言語障害センター

栗の木寮と
たから町の
企画や取り組みを
発信中！

KURINOKI.TAKARANOSATO

法人後援会
会員の状況

2024年4月1日~6月30日

までにご加入

301名 (新規 24名)
(継続277名)

法人へのご寄付 敬称略

2024年4月1日~6月30日

地域	氏名	
京都市	丸尾 英壽	体重計1台
下京区	小畑 タバサ	カーテン1組、ベッド2組
中京区	京都市聴覚言語障害センター職員互助会	寄付金 604,396円
中京区	坂元 正子	雑貨類、布袋、文具類、車のおもちゃ等
中京区	藤江 政二	寄付金 196円
中京区	浦野 英子	紙パット
南区	山本 寛	ハガキ 20枚
右京区	内藤 恵子	ハガキ 20枚
伏見区	高橋 喜彰	ミニ引出し、小物等
宇治市	高田 英一	刺繍糸
宇治市	和田 豊美	野菜
大阪府	谷口 さえ子	寄付金 30,000円
一	匿名希望	和紙、着物、ハガキ 20枚

後援会へのご寄付

2024年4月1日~6月30日

地域	氏名	
伏見区	松島 謙司	63円ハガキ 40枚
京田辺市	京田辺市聴覚障害者協会 代表 井上稔	ハガキ 60枚



社会福祉法人

京都聴覚言語障害者福祉協会

法人事業本部

TEL(直通) (0774) 30-9003

京都府聴覚言語障害センター

TEL(0774) 30-9000(代) FAX(0774) 55-7708

京都市聴覚言語障害センター

TEL(075) 841-8336(代) FAX(075) 841-8311

いこいの村聴覚言語障害センター

TEL(0773) 46-0101(代) FAX(0773) 46-0610



ホームページはこちら

詳しくは各事業所、またはホームページで <https://www.kyoto-chogen.or.jp/>